



ORACLE

後付けではない、最初から組み込まれたAI: Oracle Fusionが実現する優位性

業務アプリケーションにAIエージェントをネイティブに組み込むことで、
その力を最大限に活かすことができます





目次

ネイティブ統合が重要である理由: Fusionのエージェントの優位性	3
正確性のカギはコンテキストにあり	4
構造を理解するAIが必須条件に	5
本当に機能する自動化を支えるリアルタイムのトランザクション実行	6
エンタープライズクラスのセキュリティを標準装備	7
後付けのエージェント・フレームワークでは限界がある理由	8
エンタープライズAIエージェント評価チェックリスト	9
Fusion ApplicationsのオラクルのAIの価値を知る	11

ネイティブ統合が重要である理由: Fusionのエージェントの優位性

今日のビジネスリーダーはAIに対し、単なる表面的な自動化以上の仕事を求めています。AIによる変革は、実際に業務が行われる業務アプリケーションに、AIがネイティブに組み込まれて初めて実現します。Oracle Fusion Cloud Applicationsは、ERP、HCM、CX、SCMといったシステムにAIエージェントを直接組み込むことで、この分野の新しい標準を打ち立てています。これにより、インテリジェンスを後付けではなくデフォルトの機能として活用することができます。個別に後から付け足されるAIツールとは異なり、Fusionのネイティブ・エージェントはアプリケーション内部で動作します。これらのエージェントは、ビジネスコンテキスト、エンタープライズ構造、ユーザー権限、アプリケーションロジックに完全にアクセスできます。この深い統合により、AIエージェントは、よりスマートなインサイトを提供するだけでなく、安全で監査可能、かつ有意義なアクションを実行し、ビジネス成果をダイレクトに促進できます。競合他社がAIデータレイクという別の環境にデータのコピーを作成するのとは異なり、Oracle Fusion ApplicationsはAIをお客様のデータのもとに届けます。決してその逆ではありません。

AIを活用したビジネス・ソリューションを評価する際、ネイティブ統合が重要な差別化要素となります。FusionのネイティブAIエージェントが優れた価値を提供できる理由は、次のとおりです。

- 1 コンテキストを理解するインテリジェンス:**
FusionのAIエージェントは、ユーザーセッションやビジネスプロセス、意図を理解し、先回りして適切な提案や行動を行います。
- 2 構造を理解するAI:**
AIエージェントは、データ同士の関係や、それがより大きなビジネスプロセスの中でどのように位置づけられるかをリアルタイムで理解します。
- 3 すぐに実行可能:**
ネイティブ・エージェントはアプリケーション内部で直接トランザクションを処理するため、外部APIを使用した場合に生じる遅延や信頼性の問題を回避できます。
- 4 セキュリティを基盤に:**
すべてのユーザー、ロール、データのやり取り、AIによるアクションや提案は、強固で一貫性のあるエンタープライズクラスのセキュリティ制御によってコントロールされます。これにより、リスクを最小化しコンプライアンスを確保できます。エージェントが行う操作の全ライフサイクルのログ、監査証跡、変更履歴により、規制が厳しい業界や企業のカバナンスに必要な透明性とトレーサビリティを確保することができます。

1 正確性のカギはコンテキストにあり

Fusionのネイティブ・エージェントは、ユーザーセッション、ビジネスプロセス、ルールに関する情報をすべて引き継ぎ、一人ひとりに合わせて個別化された、正確かつポリシーに沿った応答を行います。例として、次のようなAIエージェントがあります。

休暇・欠勤アナリスト (HCM):

休暇・欠勤に関する質問に答え、ユーザーが加入している対象プラン、会社のルール、従業員の実際の休暇残高、計画中の休暇をもとに、育児休暇などの計画休暇の残日数を計算・予測します。

シフト・スケジューリング・アシスタント (HCM):

部門や組織のポリシー、労働組合の協定、労働規制に基づいてシフトスケジュールの作成を支援します。また、従業員の残業やコストのガイドラインを考慮し、スケジュールを調整・制約します。

メンテナンス・トラブルシューティング・アドバイザー (SCM):

資産の保証状況、サービス履歴、エラーコード、サービス契約条件に基づいて、具体的な対応策を提案します。



2 構造を理解するAIが必須条件に

エンタープライズの業務プロセスは、構造化されたメタデータによって管理されています。これらのモデルを理解し、その中で適切に機能できるのはネイティブ・エージェントだけです。それがなければ、データは単なる情報の集まりに過ぎず、ビジネスロジックを伴いません。エンタープライズの業務プロセスは、構造化されたメタデータによって管理されています。これらのモデルを理解し、その中で適切に機能できるのはネイティブ・エージェントだけです。データの基盤となる構造を理解できなければ、そのデータは単なる情報の集まりに過ぎず、ビジネスロジックを伴いません。Fusion Appsにおける、構造を理解するAIエージェントの例は次のとおりです。

調達ポリシーアドバイザー (SCM):

見積情報から、仕入先、品目、説明、数量、金額の詳細をもとに購買依頼を作成し、申請者の事業部門や部署に応じた勘定コードを付与します。

在庫不足解消エージェント (SCM):

組織、品目、調達プロフィールに基づいて、在庫移動、購買依頼、代替品の提案を行います。

給与設定アドバイザー (HCM):

従業員が所属する法人や地域のコンプライアンス要件に基づいて、支給項目や控除項目を提案します。



3 本当に機能する自動化を支えるリアルタイムの トランザクション実行

ネイティブ・エージェントは、単に助言するだけではなく、実際に行動します。アプリケーションに組み込まれた検証済みロジックや承認プロセス、監査フレームワークを活用し、実際のトランザクションを完了させます。さらに、複数のエージェントが連携することで、これまで人による調整が必要だった複雑で多段階のプロセスも実行できます。以下は、リアルタイムで自動処理を行うFusionのAIエージェントの例です。

注文書作成エージェント (CX/SCM):

複雑な注文書を作成します。価格を検証して在庫状況を確認したうえで、価格および出荷ポリシーに従ってトランザクションを送信します。

交渉作成エージェント (SCM):

購買依頼と調達ポリシーをもとに見積依頼書を自動で作成し、見積を依頼するサプライヤーも推奨します。

経費清算書アシスタント (ERP):

提出された経費に問題がないかを確認し、修正を提案します。
また、ポリシータグを適用し、承認のために経費清算書を再提出します。

返品注文アシスタント (CX/SCM):

返品が可能かどうかや返品方法を確認し、返品注文を作成します。その後、出荷や会計処理のために注文を送信します。

メンテナンス作業指示の実行チーム (SCM):

部品の確認、代替品の選定、在庫の確保を自動化し、作業指示の発行を効率化します。
これにより、保守担当者の手作業を削減し、設備の稼働時間を向上させます。

コスト見積もりエージェント (SCM):

作業オーダーに対する人件費、資材費、サービス費を自動で見積もり、承認の迅速化、予算管理の改善、計画の精度向上を実現します。

新入社員オンボーディング・アシスタント (HCM):

アカウントの発行、オフィス機器の手配、入館証や物理的なセキュリティ・アクセスの管理、必要書類の提出依頼など、従業員のオンボーディングを一括して実行します。

4 エンタープライズクラスのセキュリティを標準装備

ネイティブ・エージェントは、Fusion Applicationsと同じ堅牢なセキュリティフレームワークのもとで動作します。つまり、すべての操作において、AIエージェントは同じユーザーレベルの権限やデータアクセス制御を適用します。同じセキュリティポリシーと管理が適用されるため、職務やユーザーのロールに応じて、そのエージェントが利用できるかどうかや適用範囲が変わります。また、エージェントの作成や変更、トランザクションについてもすべて記録が残り、監査が行えます。例として、次のようなエージェントがあります。

報酬アドバイザー (HCM):

報酬ポリシーに関するガイダンスをリアルタイムで提供します。対象となる従業員を確認できるのは、適切な権限を持つ人事部門の担当者だけです。

人材レビューアシスタント (HCM):

人材レビューのプロセスを支援します。

マネージャーは、組織の階層構造やデータアクセスのポリシーを順守しながら、自分の直属の部下だけをレビューすることができます。

人材アドバイザー・エージェント (HCM):

マネージャーがより的確な意思決定を行い、生産的な一対一の面談を行えるよう支援します。

状況やロールに応じて、評価レビュー、面談記録、目標、フィードバック、評価、資格などの従業員情報にアクセスできるようにします。

価格プロモーション・アドバイザー (CX/SCM):

適用可能なプロモーション・プログラムや価格ルール、契約に基づいて、割引の推奨を行います。この機能は、権限を持つ営業担当者のみが利用できます。



後付けのエージェント・フレームワークでは限界がある理由

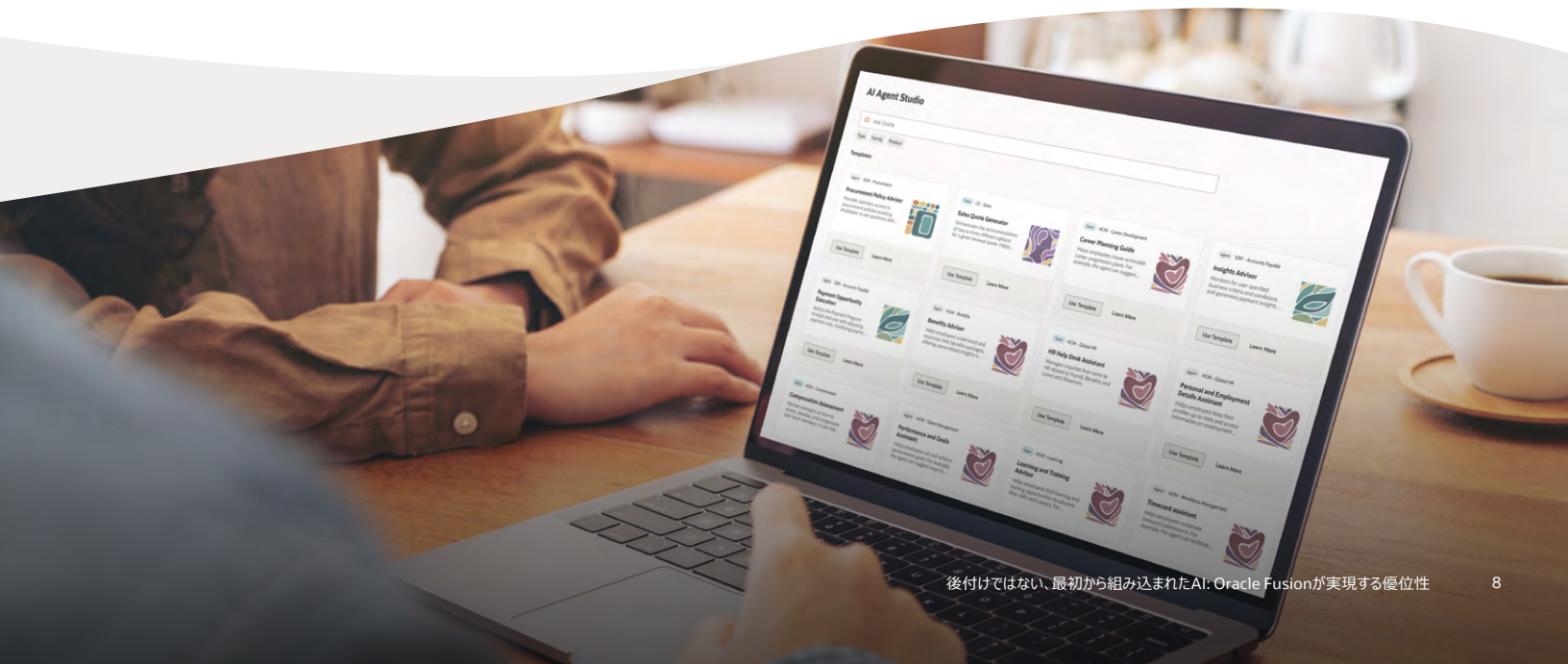
記録システムの外部に存在し、単にAPIを呼び出すだけのエージェント・フレームワークには、大きな制約があります。

- コストと複雑性の増大：分断されたシステム間で連携、セキュリティ、ワークフローを維持するには手間とコストがかかります。
- セキュリティの脆弱性：外部エージェントには、アプリケーション内のセキュリティモデルが適用されないため、カスタムのアクセス制御が必要となり、セキュリティリスクが高まります。
- ビジネスコンテキストの欠如：ルールやワークフロー、現在のプロセス状況を理解できないため、エージェントが不完全で古い、または誤った回答を返したり、最悪の場合は誤った処理を行う恐れがあります。
- プロセス全体の調整が不十分：見積りから入金、採用から退職までのように複数ステップにわたるプロセスをまたぐ場合、ネイティブロジックなしに処理をつなぎ合わせると、不安定でエラーが発生しやすくなります。

Fusionのネイティブ・エージェントは、こうしたリスクを排除し、業務システムの中で直接稼働しながら、信頼性の高いセキュリティと一貫したプロセスを実現します。

Oracle Fusionは、データを移動するのではなく、AIをデータのもとへ

エンタープライズ全体でAIを拡張するには、単なるチャット機能を超えたAIエージェントが必要です。AIを活用したビジネスソリューションを検討する際、ネイティブAIと後付け型AIの違いは明らかです。AIは、安全性が高く、コンテキストを理解し、プロセス主導で、トランザクションを実行でき、かつ完全に監査可能でなければなりません。これらすべての要件を満たせるのは、ビジネスを支えるシステムに直接組み込まれている**Fusionのネイティブ・エージェント**だけです。これらのエージェントは単に応答するだけでなく、状況を理解し、行動し、正確さと管理性をもって成果を生み出します。外部アシスタントの不確かな判断に妥協する必要はありません。コンテキストを理解し、確信をもって行動できるネイティブ・エージェントを選びましょう。



エンタープライズAIエージェント評価チェックリスト

このチェックリストを活用し、検討中のAIエージェントの機能が、スケーラビリティ、スピード、ガバナンス、そして長期的な価値に関する貴社の目標に合致しているかどうかを評価しましょう。

AIコストの構造

- ☒ 生成AIサービスやエージェントは、基本のアプリケーション・サブスクリプション費用に含まれており、追加ライセンスは不要ですか？
- ☒ OpenAI、Cohere、Llamaなどの基盤モデルへのアクセスは、プラットフォームの提供内容に含まれていますか？
- ☒ 別途AIプラットフォームや環境を用意することなく、既存のアプリケーション・インフラストラクチャ上でAIを稼働できますか？
- ☒ ご利用のティアでは、LLMの利用に対し、別の契約が必要だったりトークン単位で課金されたりしませんか？

価値実現までの時間

- ☒ 人事、財務、サプライチェーン、営業、サービスなど、主要なビジネスプロセス向けに、あらかじめ構築されたAIエージェントが用意されていますか？
- ☒ 大規模なコンサルティングやカスタム開発を必要とせずに、エージェントをすぐに有効化して利用を開始できますか？
- ☒ 数か月ではなく、数日から数週間でビジネスユーザーがAIの価値を実感できますか？

ガバナンスとセキュリティ

- ☒ エージェントはアプリケーションレベルのユーザーセキュリティ、ロール権限、データアクセス・ポリシーを自動的に適用できますか？
- ☒ 多層的なセキュリティを提供するため、チームやユーザータイプごとにエージェントへのアクセスを制御できますか？
- ☒ 誰がいつ何を変更したかを記録する監査機能が標準で備わっていますか？

アプリケーションとの連携

- ☒ AIエージェントは、ベンダーのERP、HCM、SCM、CXなどのエンタープライズ・アプリケーションに直接組み込まれていますか？
- ☒ エージェントは、アプリケーションのワークフロー、ビジネスルール、設定、ユーザーコンテキストを十分に理解して動作しますか？
- ☒ エージェントは、返品登録、購買依頼承認、発注書の作成、在庫移動などのトランザクションを、記録システム内で直接完了できますか？
- ☒ エージェントは、受注から入金、採用から退職までのように、複数のモジュールや業務機能をまたいで一連の処理を調整できますか？
- ☒ データを別のデータストアや外部環境に移すことなく、記録システムに対してリアルタイムで処理を行えますか？

カスタマイズと拡張性

- ☒ カスタムAIエージェントを構築、テスト、管理するための開発環境が標準で用意されていますか？
- ☒ エージェントを開発する際、コア・アプリケーションと同じビジネスロジック、セキュリティモデル、データ構造を活用できますか？
- ☒ プラットフォームは、Model Context ProtocolなどのOpenAIプロトコルを使用し、外部ツールやモデル、システムとの連携をサポートしていますか？
- ☒ AIエージェントは、外部エージェント、画像認識モデル、業界特化型モデル、インテリジェントインターフェース、マルチエージェントのエコシステムと連携できますか？

これらすべての質問への答えが「Yes」でない場合は、それはネイティブ・エージェントとは言えません。

Oracle Fusion Cloud Applicationの Oracle AIが実現するデジタル変革

AIエージェントの導入は、ビジネスの進め方を根本から変えつつあります。オラクルは、組み込みの生成AIとネイティブAIエージェントによって、生産性と業務プロセスの自動化を新たなレベルへ引き上げ、こうした変革をリードしています。Fusion Applicationsに組み込まれたネイティブAIエージェントが、御社の業務のありかたをどのように刷新できるのかをご覧ください。

デモをリクエスト

詳細

オラクルへのお問い合わせ

050-3615-0035にお電話いただくか、oracle.com/jp/にアクセスしてください

国外の地域については、oracle.com/jp/contact で最寄りのオフィスをお探してください。

Copyright © 2025, Oracle and/or its affiliates.このドキュメントは情報提供のみを目的としており、記載内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントは、誤りが無いことを保証するものではなく、口頭または法律で明示されているかどうかにかかわらず、商品性または特定の目的への適合性の黙示の保証および条件を含む、その他の保証または条件の対象ではありません。オラクルは、このドキュメントに関連するいかなる責任も明確に否認します。また、このドキュメントによって直接的、間接的にかかわらず契約上の義務が生じることは一切ありません。このドキュメントは、オラクルによる事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することが禁じられています。Oracle、JavaおよびMySQLはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

